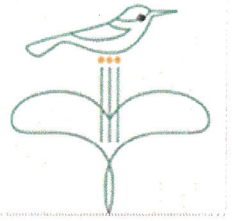


第28号

すずかけひろば



〒252-0186 相模原市緑区牧野 1987

TEL(042)689-3145

FAX(042) 682-0988

E-mail:suzukakenoie@nifty.com

<http://suzukakenoie.art.coocan.jp/>

発行責任者：宮内眞／担当：奥田弘美

その人のままで いられる空間

私はすずかけの家の『不思議な安らぎ』に惹かれ、今年から5歳の娘とチョコチョコ遊びに行かせてもらっている主婦です。

すずかけの家ではスタッフの方と利用者さんが台所で作業していたり、庭で畑をしていたり：思い思いに暮らす風景が見られます。

その暮らしの中で、今の時代の成り立ちや歴史を知ったり、ワラを編む手仕事の中に暮らしの知恵を感じたり。今と昔がつながる場にもなっています。

スタッフさんも自分の家の家事をするように自然体な動き方。『すずかけでは、自分で感じ考えて働くことをとめられる。だけど、働く人の考えを許容してくれる度量の広さがある職場だよ』と元スタッフの方が教えてくれました。まるで、すずかけに集う人達が親戚のような自然体の生活空間。

また、ふらつと色んなひとが訪ねてくる場でもあります。地域に住んでいる方、元職員が赤ちゃんと来たり。イベントには地元の小学生なども出入りしています。そんな開かれたすずかけの家に私は幼い子どもを連れてお邪魔していました。がふ



すずかけの家 とは



絵：ひしげ しょうこ



写真：すずかけの家お祭り風景



と、お仕事の迷惑になっていないか不安になりました。代表の宮内さんに尋ねてみると、「子どもだからスタッフだからお年寄りだから迷惑ってことは無いんだよ。子どもとかスタッフとかお年寄りとか関係なく、みんないいとも困ったところもあるんだ」と答えて頂きました。

すずかけの家は集うみんなで作り上げて生きていく『暮しの場』なのかもしれません。『その人らしく』地域で暮らし生きるための助け合いの場。助けたつもりが助けられたり。一人一人がその人のままで笑ったり、泣いたり、怒ったり、悲しんだり。

すずかけの家は、「みんな必要な人間なんだよ。みんな生きていこう」って包んでくれる、安らぎの場所に感じられました。

自由に生きていいのよ

【江戸時代から続くお祭りを見物】

鳥屋のお祭り見物に行きました。祭り会場へ移動の途中、ダンサーである利用者のAさんが「自由に生きていいのよ。日本人は縛りたがるでしょ？ダンサーは何にでもなれる。いいのよ、自由に生きて」その方は私の娘と躍りながら会場に向かいました。

このお祭りは県の無形民族文化財にも指定され、300年以上も地域で大切に受け継がれてきた行事。オハヤシの音楽と共にひよつとこ面や江戸時代に円海法師が



すずかけの夏景色

彫った獅子頭が踊り狂いながら町中をねり歩きます。

踊りを見てはしゃいだり、子ども達がひよつとこ面に恐がって泣いたり。ベビーカーの赤ちゃんや会場のみんな一緒にしゃがみました。いっぱい感情が発散されて、祭りの帰りは晴れ晴れ。心が巡り軽くなってるのがわかりました。

ある利用者のBさんは「いい気分転換になった」とニコニコ。『どんな立場でも心を解放する自由もある』と感じたひと時でした。



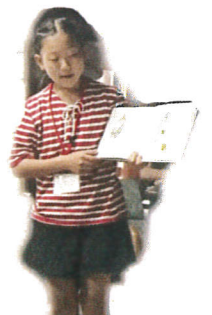
お祭り後、ハレバレ！



心が通って響き合う

【すずかけの家のお祭り】

八月二四日、『すずかけの家』のお祭り。お祭り会場となったすずかけの家には、浴衣を着こなしている利用者さん、スタッフさん、ちびっこ達：祭りの催しは、なげ輪などのゲームや盆踊り、地元の小学生やボランティアの方による絵本の読み聞かせなどで笑ったり、楽しんだり。立場や年齢関係なく、心が通い響き合う風景に人の温かさを感じたお祭りでした。



自然と一緒に生きてきた話『命』

【ある利用者さんの話】

笑顔が素敵な利用者さんが自然と共に生きる厳しさ、たくましさや語ってくれました。「台風で木が倒れてきて住んでいた家が潰れ川に流されて無くなってしまったんだよ。その利用者さんは、藁を使って生

活の道具を作り出すことができる方。自然災害で沢山のものを失いながら、自然を元にまた一から創り出す心と知恵があります。色んな経験や思いの先に、自然に根をはった命が『ある』よう見えました。



つなぎ手



編集、デザイン：『生きるを仕事へ』主婦ライター 奥田弘美